

## 平成18年度第2回九州ブロッククラブ育成推進協議会開催報告

日時:平成18年11月19日(日) 13:00~17:00

会場:アクション福岡 第3・4研修室(福岡県)

平成18年11月19日(日)に「第2回九州ブロッククラブ育成推進協議会」が福岡県において開催されました。この協議会には、(財)日本体育協会から2名、地方企画班員6名、卒業クラブ発表者5名、各県体協担当者・クラブ育成アドバイザー18名、そして育成指定クラブ関係者47名、オブザーバー6名の総勢84名が参加しました。この協議会の全体会では、「卒業クラブ(育成指定終了クラブ)の“いま”」を基本テーマとして、開催県である福岡県内の5つのクラブ(しいだコミュニティ倶楽部、右京ふれあい健康クラブ、L&Sたがわ、SOUTHクラブ、若松サンシャインスポーツクラブ)の関係者に、クラブ設立までのプロセス(困難な状況や悩み、課題等)と、クラブ設立後の運営状況(人づくり、魅力ある事業づくり、財源確保等)といった2つの視座から情報提供をして頂きました。その後のグループ・ディスカッションにおいては、参加者が興味のあるクラブを選び、5つのグループに分かれて熱心な議論が展開されました。

以下では、全体会の報告とグループ・ディスカッションの内容について報告します。



### 【1】全体会報告(報告;中平稔人 九州ブロック地方企画班員)

全体会は、グループ・ディスカッションにつなぐ話題提供の時間としているため、ディスカッションの中で結論づけられないよう進め、大きく2つの視点で協議しました：1つ目は「クラブ設立までのプロセス」として、設立に取り組んだきっかけ、最初の取りかかりと取組で見えてきた地域課題、設立に係る課題解決のキーワードについて、2つ目は「クラブ設立後の運営状況」として、現在の取組状況(会員数・種目数・交流・組織連携など)、直面している課題(人・もの・金・情報など)、課題解決のための取組の実際について、それぞれ協議しました。

前半の協議では、スピーカー自身が設立に取り組んだきっかけを紹介していただき、その中で見えた地域スポーツの課題を明らかにしていただきました。特に、子どものスポーツ環境の問題点として、やりたくてもやれない子どもや、種目を選べないスポーツ環境の実態等が示されました。次に、設立に至るまでに立ちはだかった壁として、

活動場所の問題、地域でのクラブの認知度が示されましたが、スポーツ実践者を増やしていくためには活動場所の確保に向けた利用調整が必要であり、そのコーディネート・システムとしての期待が総合型クラブにはあることが示されました。また、地域での認知度については、町の広報紙を定期的に活用した事例や、口コミでの広がり効果などが示され、こうした周知活動の展開



には行政からのサポートが必要不可欠であると感じました。

後半の協議では、実際に今取り組んでいる内容を中心に協議しましたが、活動予算に関する様々な工夫が紹介されました。設立当初の会費設定は、年間事業を計画して必要な予算を算出し、予想される会員数で「割り算」し会費を決定する方法と、地域住民が会員となるために支出する予定金額を推測し、予想される会員数との「掛け算」で算出された合計金額でできる事業を考える方法といった2種類に大別でき、地域の実態に応じて研究していく必要があるとの指摘がありました。また、設立の効用として、会員の喜ぶ顔や主体的参画意識の高揚、地域の変容等が紹介されました。具体的には、しいだコミュニティクラブの久本氏より「会員として活動していた人から、自分はわら細工が得意なので、教室にならないか、といった申し出があり、実際に正月飾りなどを作る教室として実施したところ、大変な人気教室になった」ことや、「学校の先生が参加してくれるようになり子どもたちも喜んでいる」といった事例が紹介されました。

最後は、こうした実際の事例を見ると、クラブを創り、運営していくためには「バランス感覚」が重要ではないか、とのコーディネーターの発言で全体会を終えました。

#### 【クラブ設立・運営のバランス感覚】

「収入」と「支出」のバランス                      「会員数」と「主体性」のバランス  
「競技性(専門性)」と「気軽さ」のバランス  
「引っ張る人の思い」と「後に引き継ぐ思い」のバランス

## 【2】 グループ・ディスカッション報告(報告;各地方企画班員)

### <第1グループ:しいだコミュニティ倶楽部(進行・報告;中西純司)>

第1グループは、しいだコミュニティ倶楽部の久本氏の事例発表を受け、質疑応答からディスカッションを行いました。参加者は合計13名でした。ディスカッションでは、設立準備委員会のつくり方や行政・既存団体等との連携の取り方、財源確保としての会費と参加費との区別の仕方、指導者(体指・体育協会関係者)の確保方法等について協議しました。いろんな意見が出されましたが、この倶楽部では、こうした課題に対して、地域性の重視、異質性の追求、開放性の維持といった視点から取り組み、課題解決しようという熱意が感じられ、地域に根ざした総合型クラブの運営がなされているように思いました。

### <第2グループ:右京ふれあい健康クラブ(進行・報告;谷口勇一)>

右京ふれあい健康クラブの光田さんにも参加いただき議論を深めました。当クラブの特徴は、「部活動を活性化させていること」。議論における関心事もこの点に集中。「学校にアプローチする際の心得は?手順は?」など。光田さんからは、「学校との積極的協力関係づくりで最も留意すべきことは『専門性』の強調である」。つまり、総合型クラブで一緒にやりましょう!だけでは、まだまだ認知度の低さから拒絶感を持たれることとなります。むしろクラブが有しているスポーツ指導の「専門性」を武器にすべきなのです。「部活動は地域の財産。子どもにとって大切なスポーツの場を良いものにするために総合型クラブも貢献したいのです」という姿勢が大切。的確なご回答でした。参加者一同総合型クラブの機能性について再認識する機会になりました。

### <第3グループ:L&Sたがわ(進行・報告;土谷忠昭)>

第3グループは、参加者の自己紹介を行った後に、福岡・田川市L&Sクラブ平川裕之氏の全体会での発表を受けて協議を行いました。前半では、全体会での発表に関連する質問として、「学

校（大学）との連携の実態について」「小学生中心のクラブにおいて、スポーツ少年団との関連について」「競技志向のクラブ内容と大人の活動との関連について」「指導者の確保策について」「クラブ会費について」「赤字教室の今後について」「総合型クラブとしての理念について」などが挙げられ、平川氏からL&Sクラブの状況だけでなく、設立済みの4クラブの事例を交えながら具体的な説明がなされました。



次に、後半は、参加者の抱える課題について協議をしました。特に、総合型クラブの地域における位置づけが既存団体との関連で未解決という質問が出されたが、地域間で温度差もあり、よい解決策が見つかりませんでした。また、地域の全戸を会員にする方式を打ち出して創設中である「川添なのはなクラブ」(大分県)から、全戸からの会費徴収や学校施設の管理受託、及びマイクロスバスの払い下げによるメリットなどの事例発表がなされました。

最後に、コーディネーターとして、「クラブとしては、それぞれの地域や会員の特性から同じものはなく、可能な限り経営資源（ヒト、モノ、カネ、ジョウホウ）を発掘・活用し、また、充実する努力をしながら、今、できるところからクラブづくりを進めることが大切です。本日の協議の結果を持ち帰り、自分のクラブにアレンジしながら創設育成に努力して欲しい」とまとめました。

#### <第4グループ: SOUTHクラブ(進行・報告;高橋 健)>

第4グループでは、金ヶ江氏からクラブ設立までの経緯について話がされました。SOUTHクラブは行政主導で始まりましたが、立ち上げまでに合計53回の会議を進めていくうちに自分達で作っていくんだという気持ちが芽生え、クラブの説明会を各種団体や学校のPTA総会等で積極的に行うようになりました。現在は、多世代で楽しめるクラブづくりを展開しており、特に子どものプログラムにおいては「幼児期に遊ばせる」をコンセプトに「音読」や「百マス計算」なども教室に取り入れているようです。

こうした説明に対して、参加者から「2年の準備期間で受益者負担での設立について」「乳幼児の教室等のリスク管理について」「学校の先生を指導者としてクラブに携わってもらうにはどうしたらいいか」「保険について」などの質問が出されました。金ヶ江氏の言われた言葉で印象に残ったのが「自分達が楽しむ」であり、まずは自分が楽しくないと続かないし、人も集まらない。頑張っただけのクラブの運営をしているところの共通点はキーパーソンになる人が存在するということでした。話しをされている時の金ヶ江氏の顔はとても輝いていて、本当に楽しんでやっていることが伝わってきました。今、総合型クラブの育成で大事なものはクラブの数字ではなく、「人」の育成であることを改めて痛感させられました。

#### <第5グループ: 若松サンシャインスポーツクラブ(進行・報告;北野隆行)>

第5グループでは、スポーツクラブ立ち上げのきっかけ、財源の確保と有効活用、クラブのPR活動について、改めて山崎さんに尋ねました。立ち上げのきっかけについては、「子どもたちを支えるために何をすればよいか」を検討するためにアンケート調査を実施した結果、「スポーツチャンバラ」が子どもたちに反響があり、実際に教室の回数を重ねていくうちに大会出場に進み、全国大会に出場して優勝したことがきっかけであるということでした。このように、子どもたちに人気がある種目からイベントなどを実施して、それを立ち上げのきっかけづくりにす

るのが望ましい方法ではないでしょうか。

次に、クラブ運営のための財源確保と有効活用については、月3,150円の会費（2人目は2,100円）で、年間約300万円を主な財源としており、やや高い感じもするが安定した運営をするためには思い切った設定も必要であるということでした。また、行政からの委託事業も200万円受託しているということでした。さらに、500万円の財源を有効活用するために、クラブのリーダーである山崎さんを有給で雇用するとともに、活動に必要な用具購入に費やしているそうです。卒業クラブのほとんどが財源に頭を抱えています。これからは、待つのではなくクラブから行政を動かしていくことが大切です。

最後に、PR活動については、住民から、あるいは行政からの認知度を高めなくては会員確保もできないし、行政からの委託事業への働きかけも難しいそうです。若松サンシャインスポーツクラブでは、学校・幼稚園の子どもたちに学校などを通じて保護者へのPR活動を実施するとともに、ボランティア活動の1つですが、ユニセフ支援（イベント参加料の一部を寄付）なども、広く知名度ならびに信頼度を得る手段となっているようです。

### 【3】まとめ(報告;中西純司)

第2回クラブ育成推進協議会では、「卒業クラブの“いま”」というテーマで熱心な議論が展開されたように思います。特に、各クラブが地域の実情や課題・問題点に対応できるような工夫をしながらクラブ運営をしていることが、参加者全体で共通理解できた有意義な協議会でした。しかし、最近、私自身が反省していることは、総合型クラブで「地域づくり」を強調するあまり、総合型クラブの本来の目的である「地域住民の豊かなスポーツライフの実現」を等閑なぞりにしていた点です。総合型クラブの目的は「豊かなスポーツライフの実現」であり、その結果として「地域づくりやコミュニティ形成」があるということ、今一度再確認するときではないでしょうか。

(全体調整・報告;中西純司 九州ブロック地方企画班長)